

凹道内の  
衝突

五里堡を経て汜水シシユイに到る。人口約一千、磚壁之を圍むこと十數町、市街狹隘、家屋密ならず、商賈従うて振はず、其の南門外に汜水の一小河を通せり。

汜水は滎陽を隔つこと約五里、其の間地勢凸起且つ緩徐の坂道を昇降し、道路は殊に全部殆んど大凹道を爲して兩側の斷崖、高さ數丈、宛然谿谷の如く、一種の長狹隘を成形せり。而も多年風雨の侵蝕に依り、斷崖自然に崩れて路幅を狭め往々數歩に過ぎざる場所多し。是に於てか往來の馬車、此の凹道内に遭遇せんか、何れか其の一方は、稍避待し得べき數町或は十數町後方の地點迄退かざるべからず。退かんか、斯の如き難路に對し、二倍の辛苦を拂はざるを得ざるを如何せん。進退惟に谷まり一場の争鬪は演出せらる。強きは遂に勝を制し、弱きは泣く泣く引き返へさゝるを得ざるなり。然れども若し官衙の荷物、或は保險旗を掲揚するものに向つては、其の一方は何等の事情あるとも退讓するを常とす。予は此煩を避くる爲め數町前へ人を出して豫め警戒せしめたり。

汜水を渡れば、暫時にして虎牢關ホーラオコワンに到る例の凹道を南進すること約九町、其れより上坡となる、其の東側の坡上は、所謂古の虎牢城にて、東、汜水を控へ、北、黄河に枕み

虎牢城の  
今昔